

第1回 地方独立行政法人安来市立病院評価委員会 議事要旨

○開催日時 令和8年7月9日（木）午後1時30分から午後3時30分まで

○開催場所 安来市役所安来庁舎 3階 防災対策室

○出席者

（委員） 上田 敬博委員、小川 真滋委員、栗谷 義樹委員、
久留 一郎委員、吉田 実貴人委員

（安来市）	市 長	田中 武夫
健康福祉部	参 事	松崎 理泰
健康福祉部地域医療推進室	室 長	加藤 昌和
	係 長	福田 征二
	主 任	荒田 侑拓
	主 任	永澤 果林
（安来市立病院）	事業管理者	山崎 泉美
	病 院 長	水田 正能
事務部	部 長	宇山 富之
事務部総務課	課 長	青木 尚美
事務部経営管理課	課 長	藤原 渉
事務部医事課	課 長	井原 隆宏

（委託業務受託者）
東日本税理士法人 税 理 士 夏苅 千晶

○内容

1. 開会

2. 委嘱状交付

市長より委嘱状交付。

3. 挨拶

（1）田中市長

お集まりの皆様におかれましては、本日は大変お忙しい中、第1回地方独立行

政法人安来市立病院評価委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、平素より本市の医療行政に対し多大なご理解とご尽力をいただいておりますこと、心より厚くお礼申し上げます。

ただいま、皆様を地方独立行政法人安来市立病院評価委員会の委員として委嘱させていただきました。委員の皆様には、これから2年間、本委員会の運営に対し、お力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、私は、本年2月の安来市議会2月緊急会議において、安来市立病院の経営形態を現在の「地方公営企業法全部適用」から「地方独立行政法人」へ移行する方針を決断し、表明いたしました。

市が責任を持って支えながら、より柔軟な経営ができるこの仕組みへ移行することにより、最大の課題である「医師の確保」にしっかりと取り組み、市民の皆様へ安全・安心な医療の提供を継続していくための体制強化に注力して参る所存であります。

地方独立行政法人の設立に向けましては、今年度より市役所内部と市立病院事務部の人員体制も強化し、島根県、鳥取大学医学部附属病院をはじめ、関係各所とも協議を重ね、準備を進めてきており、先月の市議会6月定例会議におきましては、法人の定款や本委員会の設置条例について議決いただいたところでございます。

さて、本日は、評価委員会の役割とスケジュール、安来市立病院の現状についてご説明した後、この会の運営に関する要綱、法人の中期目標についてご審議いただくこととしております。

詳しくは事務局から説明いたしますので、委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

結びになりますが、引き続き評価委員の皆様には、令和9年4月の法人設立に向けて、お力添えを賜りますようお願い申し上げ、簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

(2) 山崎事業管理者

皆さまには、平素より安来市立病院の運営に対しまして、ご理解とご指導を賜っておりますこと心より厚くお礼申し上げます。

安来市立病院は、昭和30年5月に開設されて後、時代の要請に沿って、病院の果たすべき役割や機能を見直しながら、医療サービスの維持・向上に努めてまいったところでございます。しかしながら、平成27年度に資金不足に陥ったことで、その後

の病院経営は厳しさが増し市立病院のあり方は絶えず議論されてまいりました。当院では経営改善に向けた努力を重ねておりましたが、思うような成果が得られない中でコロナ禍を迎え、また、同時期には当院スタッフの離職も重なったことなどもあり、非常に厳しい環境下での運営が続いておりました。

そうした中、国が示した「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を受け、改めて当院の抱えている課題を洗い出し、その解決の方向性として、これまでの「病院完結型」の医療から、総合診療を中心に広域的な医療連携を軸とした「地域完結型」の医療へ、そして在宅医療の需要に応えつつ地域全体を支える「地域密着型」の病院への転換を決定し動き出したことで、少しずつその成果が現れるようになってまいりました。この「経営強化プラン」の取り組みは、当院が「地域を支える病院」へと変容を遂げる第一歩であったと感じております。

この度、安来市は、安全・安心な医療の提供を継続し、地域医療を確保していくために、安来市立病院の経営形態を地方独立行政法人へ移行することを決定し、その際、田中市長から「医療はまちづくりの要である。市立病院の医師確保と経営強化を図り、安来市の地域医療を守る」と力強いお言葉をいただきました。

人口減少と少子高齢化が加速化し、医療を取り巻く環境が大きく変化していく中、地域に必要な医療サービスを安定的に提供していくためには、「患者さまのために、地域のために、必要なものが何であるかを知り、何をすべきかを考え、行動することである」と考えております。

今、安来市立病院は地域医療の砦となるべく、新たなステージへの一步を踏み出そうとしております。来年 4 月までは、非常にタイトなスケジュールとなっておりますが、委員の皆さまにご助言をいただきながら、遅滞なく進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

4. 委員紹介、事務局職員紹介

資料 3 の名簿に従い紹介。

5. 評価委員会の役割と今後の審議スケジュールについて

事務局より、資料 4 に従い説明。

【質疑】

質疑なし。

6. 安来市立病院の現状について
事務局より、資料 5 に従い説明。

【質疑】

■委員

- ・ 高齢者の数はどういう推移をするか。
- ・ 医療需要はほとんどがピークアウトしている状態。その推計値というのが正確にでないといと経営計画が立てにくくなる。そのあたりを資料に入れてほしい。

□事務局

- ・ 要望のあった資料について、次回までに提供する。

7. 委員長及び副委員長の選任について

委員の互選により、上田委員が委員長に選任された。

委員の互選により、小川委員が副委員長に選任された。

8. 議題

議題 1「地方独立行政法人安来市立病院評価委員会運営について」、事務局より、資料 6、資料 7 について説明。

本日の会議を公開すること、また、当日の傍聴人の数を 10 名とすることが決定した。

議題 2「地方独立行政法人安来市立病院中期目標（案）について」、事務局より、資料 8 について説明。

【質疑】

■委員

- ・ 新たな地域医療構想の観点から、医療機関機能分類をどうするのか。
- ・ 島根県医療計画の 5 疾病 6 事業プラスアルファとの関連性をどのようにされるのか。
- ・ 医療の質の向上や患者・家族から信頼される病院という観点から、市立病院の病院機能評価の更新状況を確認したい。
- ・ 市からの派遣職員も想定されると思うが、法人化後どのようにプロパー職員を育成していくのか確認したい。医事業務を外注している場合でも、加算の取り漏れ

などの事例が発生するため、コンサルタント会社などの活用する考えはあるか。

- 法人化後は、損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書を毎月作成し、月次で資産・収支をモニタリングすることが必要と考えるが、その体制を構築できるか確認したい。

また、繰入金について、5年間でどの程度必要となる見込みか確認したい。

- 医療材料費等購入において、現状で標準価格やベンチマークとの比較により価格水準を把握しているか状況を確認したい。
- 今後中期計画の内容として収支計画を作成するにあたり、損益分岐点売上高をどの程度に見積もっているのか確認したい。

□事務局

- どちらかというと中期計画で盛り込む内容が多かった。いただいたご意見を意識しながら中期計画を作成していく。
- 質問の中にあったデータ等について、次回までに提示できるものがあれば用意する。

■委員

- 前文及び第2では高度急性期・急性期病床が過剰と記載されている一方、資料5では急性期機能を担いつつ在宅療養を推進する病院とされ、また本項でも軽症から中等症の救急患者は原則受け入れるとされている。急性期機能を残すようにも読め、記載内容に齟齬がある。

■委員

- 安来市立病院が地域医療構想の中でどのような立ち位置を選択するのか、医療圏域における方向性がはっきりしないと、改善の進むべき方向が曖昧になる。

□事務局

- 地域医療構想に沿った表現に見直す。

■委員

- 常勤医師の確保・定着を目標として掲げる場合、中期計画内容を見据えた表現とすべき。
- 医師の項目にはワーク・ライフ・バランスの記載は必要ではないか。

□事務局

- 現状では中期目標に対する中期計画のイメージを持ってもらえていないので、次回は中期目標に対する中期計画のイメージを示し、それも踏まえた判断をいただく。

■委員

- 総合診療医をアピールすることは重要であり理解できるが、中期計画内容を見据えた表現とすべき。

■委員

- 安来市は松江医療圏に属しているが、生活圏としては米子市の方が近い。今後、松江医療圏域と鳥取県西部医療圏域の双方との情報共有が必要。

■委員

- 安来市は災害拠点病院から距離があるため、災害医療に対応していくことを文言として加えた方がよい。

9. その他

次回開催日程について、以下のとおり事務局案を提案し、委員の了承を得た。

日時：7月30日（木）13時30分～

場所：安来市役所 3階 301会議室

10. 閉会

以上